【中野人インタビュー】お笑い芸人　ポリスじろう氏

2022.02.14 UP **JR中央線沿線エリア** **投稿者：まるっと中野編集部**

[中野人]

スタッフが全員お笑い芸人の児童支援団体 " わくわくわらっぴー・児童支援”。中野区に事務所を構え、親子食堂や、子どもたちの学習支援などの活動をしています。
今回はそんな " わくわくわらっぴー・児童支援”に参加する、お笑いコンビ「ツインクル」のポリスじろうさんにお話をお伺いします。

ずっと住み続けたくなる魅力がある、中野のまち

–ポリスじろうさんはもともと関西の出身なんですね

「はい、京都生まれで大学卒業までは関西育ちです。大学卒業後にお笑い芸人を目指し、1998年に大学時代の同級生、クック井上。とコンビ結成し上京しました。最初の4、5年は中野以外の場所に住んでいましたが、それ以降はずっと中野に住んでいます。もう２０年になりますね」

–どうして中野に住もうと思ったんですか

「中野と、中野周辺の新宿や阿佐ヶ谷、高円寺とかも含め、ライブ会場が多いんです。そのため僕たちのような芸人がたくさん住んでいて、当時からも“中野は芸人が最初に住むまちのイメージ”というものが強くあったんです。出川哲郎さんや久本雅美さんも、昔住んでたと聞きますしね。新宿にも近くて、交通の便がいいのも魅力的でした。でも、中野を選んだのはそれだけではありません。中野に最初に来た時、ものすごく住みやすそうな印象を受けたんです。アットホームなまち、というんでしょうか、中野サンプラザや中野ブロードウェイといった都内でも有名なランドマークも、どこか暖かい感じがして。新宿や渋谷って、関西からきた僕にとってはまさに“ザ・東京！”って感じだったんです。それに対して中野はどこか下町っぽさがあるというか。このほどよい都会感が、僕にとってはとても居心地が良かったんです」

「でもほどよいといっても、中野ブロードウェイに最初来た時はもちろん驚きましたよ！感動したって表現が正しいかな。僕は“キン肉マン”や“ビックリマン”世代なんですが、中野ブロードウェイにはこれらの商品がズラーッと並んでいるわけですよ。年甲斐もなく興奮しちゃって。他にも“ミニ四駆”やら“ファミコン”やら。しかもどれも結構高額な値段がついているんです。何か残っていないか、思わず実家に電話した記憶もあります（笑）。中野はサブカルの聖地と言われていますが、サブカル文化、素晴らしいですよね。僕も大好きです」

「あと、僕は地元のPTA会長を務めさせてもらっているんですが、定期的に行われる中野区会長会で、他の地域の方と話をする機会が多々あるんです。野方や江古田の方の話を聞いていると、同じ区なのに意見や考え方にも個性があると感じます。いろんな顔を持っている区だなあ、とも。歴史もある、文化もある、グルメだってたくさんある。中野っていろんな文化が入り交じっている、すごく面白い区なんです。僕にとっては、それがずっと住み続けたくなる魅力の一つでもあるんです」

“お笑い”を通じた地域との関わり

–お笑い芸人として、中野で様々な活動をされていらっしゃいますね

「芸人としてずっと活動を続けていますが、子どもを生まれたのが機に、ベビーシッターの資格を取得するとともに、NPOフィールホーム理事になりました。子どもが生まれたことで、子育てというものに非常に興味をもったのが理由ですが、同時に“パパ芸人”として、新しい何かを生み出せないかな、とも考え、子育て評論家の石川幸夫先生と所属事務所ソニーのパパ芸人たちをあつめたSOP子育てHOTライブを開催。この活動をもっと広げていきたいと思った頃に、児童支援団体 " わくわくわらっぴー・児童支援”の代表理事の平田さんと知り合ったんです。“子どもをお笑いで笑顔にすることで親も笑顔に、家族みんなが笑顔に”をコンセプトに、一緒に活動していくことになりました。例えば、漫才やトークショーといったイベント開催だけでなく、子どもたちと一緒にジェスチャーゲームをしたり、フリップを使った絵しりとりなんかをしたり。こういう遊びって、リアクションやつっこみのスキルが鍛えられるんです。それは普段のコミュニケーションで役に立つだけでなく、子どもたちのストレス発散につながったりもします」

親子漫才にも参加

「実は、僕の娘も僕と一緒にM-1グランプリや千鳥の親子漫才番組とか、「ポリスファミリー」でお笑いのステージに立ったりしているんです。才能ある大人がひしめく世界で、どこまで行動していくことができるか、そのあたりを経験させる意味で参加したのですが、結果は僕の方が緊張しましたね（笑）。一緒にステージに立つことで、お笑いという共通の話題もでき、いい親子関係の構築にもつながったと思います。ただこれから反抗期なので心配も…まあ、でもそれも笑いに変えていきたいですね（笑）」

–今後取り組んでいきたいことはありますか

「新型コロナウイルス感染症の影響もあってなかなかイベントを開催しにくくなりましたが、子ども同士でネタを作って、それを実際のステージで発表する、といったイベント「第一回 中野区子どもOnly-1コンテスト」に力を入れています。ステージに実際に立って人前で何かを披露するというのは、ものすごく緊張感を伴います。でもこ

れは、人に何かを伝えるコミュニケーションスキルを磨く上で、他ではなかなかできない経験となるんじゃないでしょうか。このイベントについては、今後もより一層力を入れていきたいと思っています。現在、わくわくわらっぴーには、浅井企画の“ニュークレープ”のリーダー・田辺さん達を含めお笑い芸人が八人ほど参加しています。全員共通して子どもが大好きで、子どもだけでなく親子で一緒に楽しめる企画についても、常日頃から意見交換しています。」

「中野は今再開発などで、まち全体が変わりつつあります。でも“中野のよさ”は残していって欲しいですね。施設や環境が近代化していくのは必然的だとは思いますが、それでも中野ならではの小劇場やイベント、お祭りなんかは消えないで欲しい。こういったものがあって、人情味のあるまちとしての良さがこれからも続き、笑顔が生まれると思うんです。笑いは全国共通の文化です。中野は芸人がたくさん住んでいる“お笑いのまち”でもあるし、笑いがまち全体にさらに広がって笑顔が増えれば、“プラスな行動”の連鎖も起きていくんじゃないでしょうか。こんな感じで、中野がますます住みやすいまちになってくれれば嬉しいですね。僕は笑顔が本当に好きなんです。人々の笑顔を見る時、お笑いに関わる仕事をやっていてよかったなあ、と思います」

【中野区のお気に入りスポット】

「グルメでいえば、本町の尚ちゃんラーメンがお気に入りです。ここは昔から若手芸人なんかがよく集まる場所で有名です。美味しくて特盛りのご飯はいつも大満足。中野はグルメがすごく充実しているので、正直どこもお気に入りなんですよね。家族で中野ブロードウェイやサンモール商店街でショッピングしたあとは、中野ふれあいロードで食べるのがうちの定番です。」

「あと広町みらい公園もお気に入りです。広くてとても景色の良い公園で、遊具もあるし、カフェや体験教室なんかも充実している。子どもと一緒に楽しむには最高ですね。帰りは目の前の島忠でお買い物もできますしね（笑）」

★今回の中野人
ポリス じろう

お笑い芸人/SMA所属の“ツインクル”
1974年12月生まれ。京都府出身。
ベビーシッター資格をとり、今までにのべ1000人以上子どもをサポート。ベビーシッター芸人としても活躍中。
「こども成育インストラクター」「脳育ベビーマッサージセラピスト」等の資格保持も活かし、「一般社団法人わくわくわらっぴー・児童支援」で、子ども達に向けたお笑い支援活動に積極的に取り組んでいる。
★公式Twitterは~~コチラ~~
★公式Instagramはコチラ

※問い合わせ先の記載がない記事については、まるっと中野編集部までお問い合わせ下さい。
　掲載場所近隣の区民の皆様に直接お問い合わせすることはご遠慮いただきますよう、お願い申し上げます。
※掲載情報は全て記事取材当時のものです。